

利用環境WG(第1回)議事要旨(未定稿)

1 日 時

平成16年3月1日(月) 16時35分から18時00分

2 場 所

三田共用会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

堀部政男(座長)、新美育文(座長代理)、井崎直次、大谷和子、岡村久道、佐野真理子、東倉洋一、三石多門、守安隆、脇浜紀子

(2) 総務省

桜井参事官、今川総合政策課課長補佐

4 議 題

(1) 構成員より発表

国立情報学研究所人間・社会情報研究系教授

東倉 洋一

弁護士、近畿大学・奈良先端科学技術大学院大学兼任講師

岡村 久道

より意見聴取を行った。

(2) 事務局より説明

(1)、(2)に対して、各構成員と事務局との間で以下のような議論が行なわれた。

- 東倉構成員の発表にあったインフォームドコンセントは、プラスとマイナスを提示して判断を求めるとのことだと思うが、そのプラスとマイナスをどのように認識するかは、難しい問題。
- プラスとマイナスを明らかにするために、社会実験などを行なうのも一つのアイデアではないか。便利さの反面、リスクがあるということをユーザは、認知していないことが問題。
- 東倉構成員の話は、環境アセスメントみたいなイメージだと思うが、これは、アイデアとしては面白いが現実的に難しい。
- 事務局プレゼンにあった、10項目の課題は既に見えている危険や課題。これから

実現するユビキタス社会を考えるのが今懇談会のテーマ。2010年に、このようになっているという社会像をまず描き出して、共通の雛形を用意し、どのような問題が起こりうるかを議論する必要がある。現存する以外のリスクに関しても検討していく必要。このワーキングの課題ではないのかもしれないが。

- プラスの側面とマイナスの側面についてであるが、マイナスの側面は、単体で使われた時と社会全体とで使われた時の性格が違ってくる。大量につながったとき、どのようなボトルネックが生じるのか。

ユビキタスネット社会は、課題の一つに影響があれば、他のすべてに影響が及んでくるという性質を持っている。この社会的な脆弱性の波及を視点に加えるべき。

- 発表にあった特区制度を使つての実験というのは非常に興味深い。
- 特区に関して言えば、規制をなくしたら、こんなに良くなることを示すことが重要。特に知的財産制度。コンテンツ流通に関しては、権利保護の問題が大きな壁と。
- ビジネス立ち上げに関わっていると、迷惑メールや、ハッカー、クラッカーなどの大きなネット社会の負の問題に直面する。利用者には、プラス要素とマイナス要素の両面を、知っていただき、我々がどのように考えるかを示すべき。
- 消費者に対して、ディメリット教えてくれない。正も負もというが、負をオーバーに言ってもらったほうが良い。情報提供はきちんとして欲しい。
- トレードオフの関係。社会的価値判断を下せるように、我々がするべき。